

沖縄では慰霊の日「この沖縄の『チムグクル（沖縄の言葉で「真心」）』

6月23日は、沖縄の人にとってとりわけ重要な日だ。78年前の沖縄戦で日本軍の組織的な戦闘が終結したとされる日なのだ。その戦没者追悼式の中、私立つくば開成国際高校3年生の平安名秋さんが詩「今、平和は問いかける」を朗読した。＜朗読映像・全文＞⇒

「七十八年前の/あの日/あの時/かけがえのない/たったひとつの命が/憎しみと悲しみの中で/散っていった/名も無き赤子の/微かな/微かな泣き声は/震える母の手によって/冷たく光の無いガマの中で/儚く消えていった」泣き声が聞こえるとそこを攻撃されることから、自らの手で子どもを窒息させた母親の無念・後悔・苦悩が響く。今ある平和の尊さを忘れてはならない。※ガマ：防空壕



「視覚」は怪しい・・・けど、重要

今回は「視覚」について、考えてみたい。（本校のある授業からヒントをいただいた。）

「人間の五感による知覚の割合は、視覚 83%、聴覚 11%、嗅覚 3.5%、触覚 1.5%、味覚は 1%といわれています。人間が受け取る情報のうち、8割は視覚からの情報です。」（「リスク対策.com」より）

一瞬で誰にでもわかるようにする必要性からピクトグラムが用いられる。非常口、道路標識、地図記号、禁煙マーク、トイレマーク、男女のマーク、看板などあらゆる場所に使われている。2021年の東京オリンピック開会式で、人間がピクトグラムのパフォーマンスを行ったことは記憶に新しい。観ていると動きが「とにかく明るい安村」さんの「Don't worry. I'm wearing. "pants"」に見えた。彼のパフォーマンスも一種のピクトグラムかもしれないと思ってしまった。視覚からの情報はとにかく情報量が膨大だ。だからピクトグラムは、シンプルに誰が見ても分かるように作成されている。



YouTube 東京五輪開会式
ピクトグラムパフォーマンス



一方、情報量が多いからこそ当てにできない部分がある。例えば犯罪の目撃者情報は、本来重要な証拠になるはずだが、聴覚や嗅覚に比べると情報量が膨大すぎて、逆に曖昧な情報になるケースが多いらしい。時間が経過するとそれに伴って視覚情報の記憶もどんどん曖昧になる。他の視覚情報が次々に目に飛び込んでくるのだから、それらと混同することになるからだろう。また、「幽霊の正体見たり枯れ尾花」という川柳もあるように、「怖い、怖い」「何か出るかもしれない」と思っていると、枯れた薄（ススキ）が幽霊に見えてしまうという現象が起こる。だから視覚は怪しい。逆にギフトッド・タレントッドと呼ばれる人の中には、一瞬で目の前の光景を記憶し、それを正確に描写することができる人もいる。

『人は見た目が9割』（新潮新書 2005年）の作者竹内一郎氏は次のように言う。

「言語より大きなコミュニケーション手段があったのである。賄賂を貰った大臣がお詫び会見で、小声で俯きながら『私は知らない。秘書がやったことだ』といったとする。大臣は、賄賂を貰っているのでしょうか、それとも貰ってはいないのでしょうか？ 学生の多くは『貰った』と答えた。言語は『秘書がやったこと』である（言語情報）。しかし、小声で（聴覚情報）、俯いて（視覚情報）しゃべれば、言語情報より、聴覚情報や視覚情報の方が上回って伝わるのである。言語情報と矛盾した、聴覚情報や視覚情報を発すれば、『言葉は力を持たない』のである。（中略）『1 外見、2 動き、3 表情、4 声、5 空間、6 接触、7 色と匂い』人間は、これほど多くの情報を伝達し、“総力戦”で伝え合っているのである。」

（<https://gendai.media/articles/-/67398?>）と非言語的コミュニケーションの重要性を『人は見た目が9割』だとして語っている。それを受けての本校の「相手の眼を見て笑顔で挨拶」の習慣化なのだ。

アメリカの高校生、本校に。

6月23日（金）米国からの2人の高校生を受け入れてもらった。それは、米国では6月から8月一杯が夏休みで、日本人の母親の実家に里帰りのために来日し、日本の高校を体験したいという要望があったからだ。急な事にも関わらず、全ての学年にお世話になり、様々な工夫もしていただいた。2人は、大変喜んでいて。このような機会がなければ、逢うこともない人と交流できたことは、いい経験になるだろう。そして何と、本校生の何人かは数日後のゆかたまつりの会場で再会したという。Amazing！

We keep on trying. 挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校に私たちはなる 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩